

介護状況の把握に関するアンケート調査結果

2015年6月実施

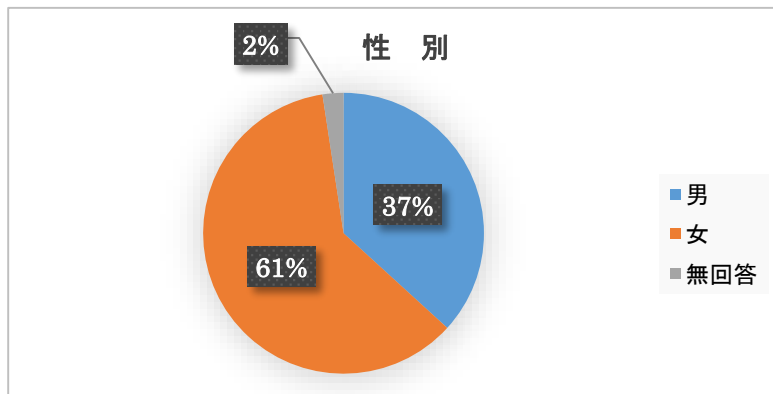
【対象者】全教職員

【実施機関】平成27年6月15日（月）～ 6月30日（火）

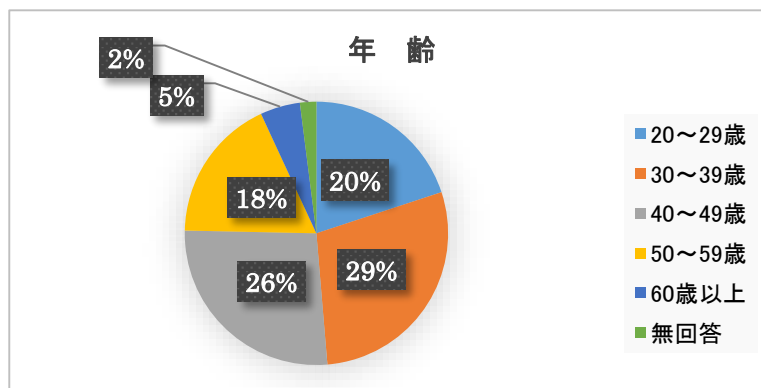
【方法】紙媒体アンケートを全教職員個人宛に配布し、回答後返信用封筒にて回収した。またWEBアンケートも全教職員に一齐送信し、URL上で回答した（無記名）。いずれの方法かは、各回答者が選択した。

【回答率】52.3%【配布総数：4373通】【回答数：2287件（封書：1613通 WEB：674件）】

1. 回答者の属性：性別・年齢・所属

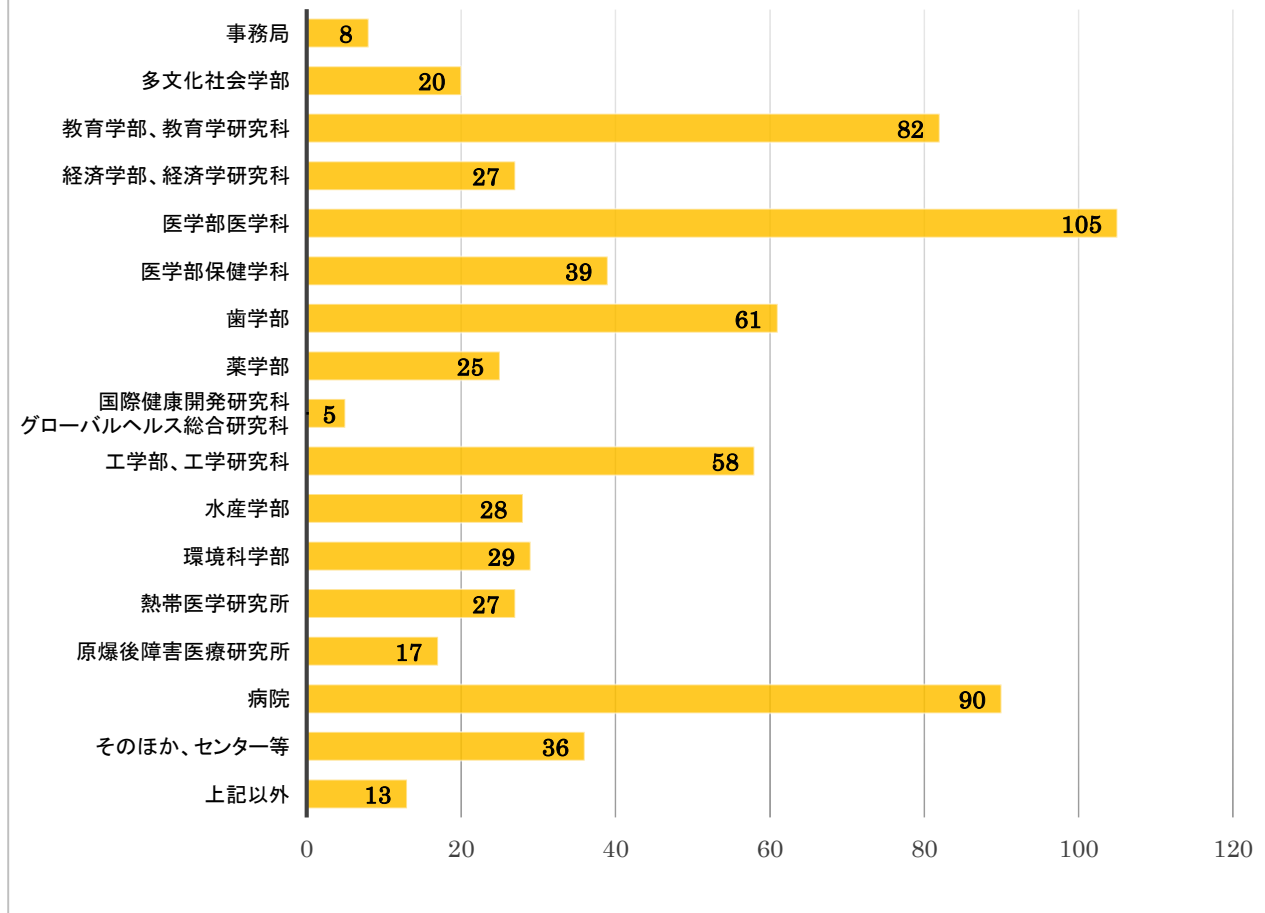


（参考：平成27年5月1日時点での長崎大学の教職員男女比率は、男性45%、女性55%である。）

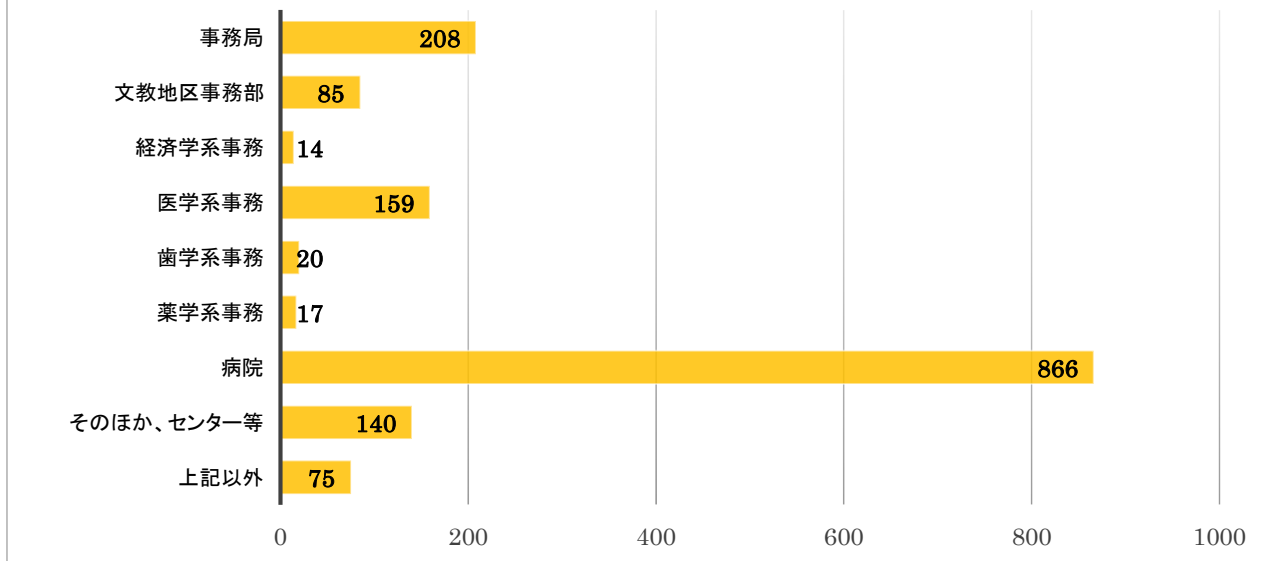


（参考：平成27年5月1日時点での長崎大学の年代別職員比率は、20歳代24%、30歳代31%、40歳代24%、50歳代16%、60歳以上5%である。）

教員の所属



職員の所属



(参考：平成 27 年 5 月 1 日時点での長崎大学の部局別職員数は、以下表のとおりである。アンケート配布時点で産休・育休等の特別休暇取得中の方、退職された方、出向中の方も含まれており、アンケート配布総数とは異なる。)

<教育職員>

事務局	18	多文化社会学部	25
教育学部・教育学研究科	169	経済学部	57
医歯薬学総合研究科（医学系）	171	医歯薬学総合研究科（保健学系）	55
医歯薬学総合研究科（歯学系）	94	医歯薬学総合研究科（薬学系）	46
熱帯医学・グローバルヘルス研究科	10	工学研究科	117
水産学部・水産科学総合研究科	50	環境科学部・環境科学総合研究科	44
熱帯医学研究所	59	原爆後障害医療研究所	37
病院	250	センター等	59
		総数	1,261

<職員>

事務局	395	文教地区（事務局・センター除く）	272
経済学部	27	医学系	286
歯学系	46	薬学系	33
病院	1,983	センター等（熱研・原研・GH 研究科含む）	149
		総数	3,191

このアンケートにおける「介護」とは、介護認定の有無や身体的な介助・生活支援等の実際の介護に限らず、将来介護が必要になる可能性が高いご家族を気にかけること、

たとえば

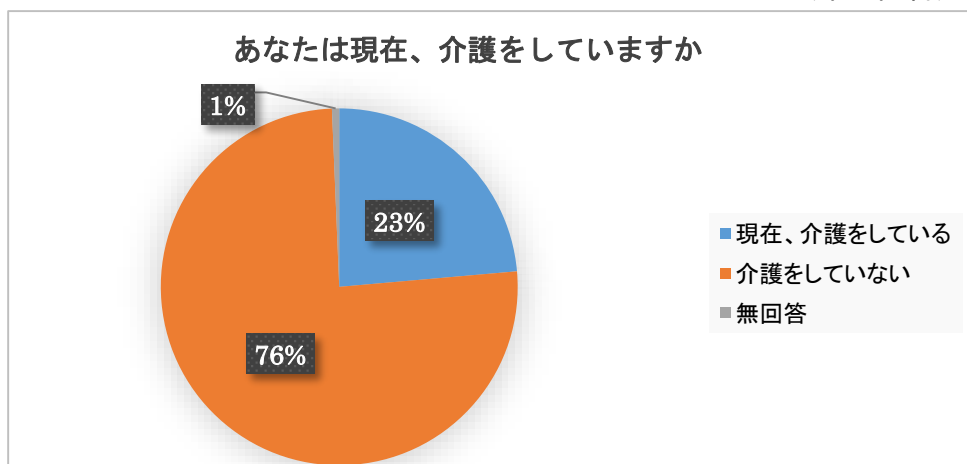
- 月に 1 回顔を見に行く
- 買い物に連れて行く
- 毎日もしくは週に 1 回・月に 1 回電話をかける
- 病院受診に付き添う

等も含めており、一般に考えられている介護より幅広く捉えている。

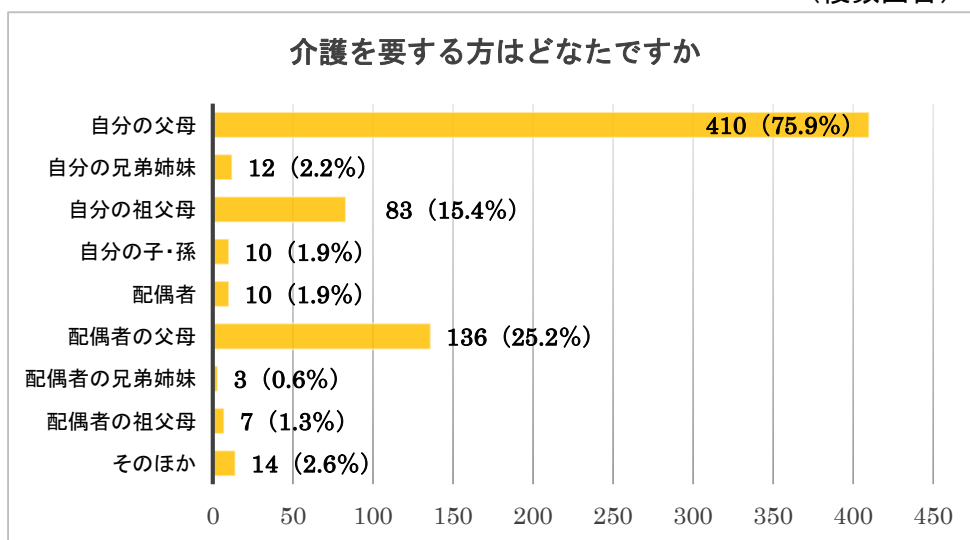
(家族とは配偶者、父母、子、祖父母に限らず、孫、兄弟姉妹等を含む)

2. 現在の介護の有無、介護の対象者と居住場所

(単一回答)

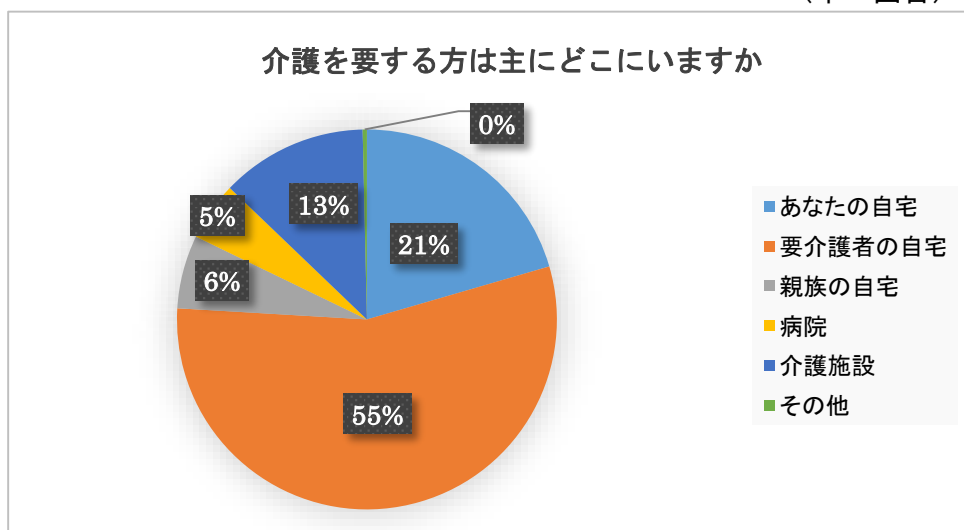


(複数回答)



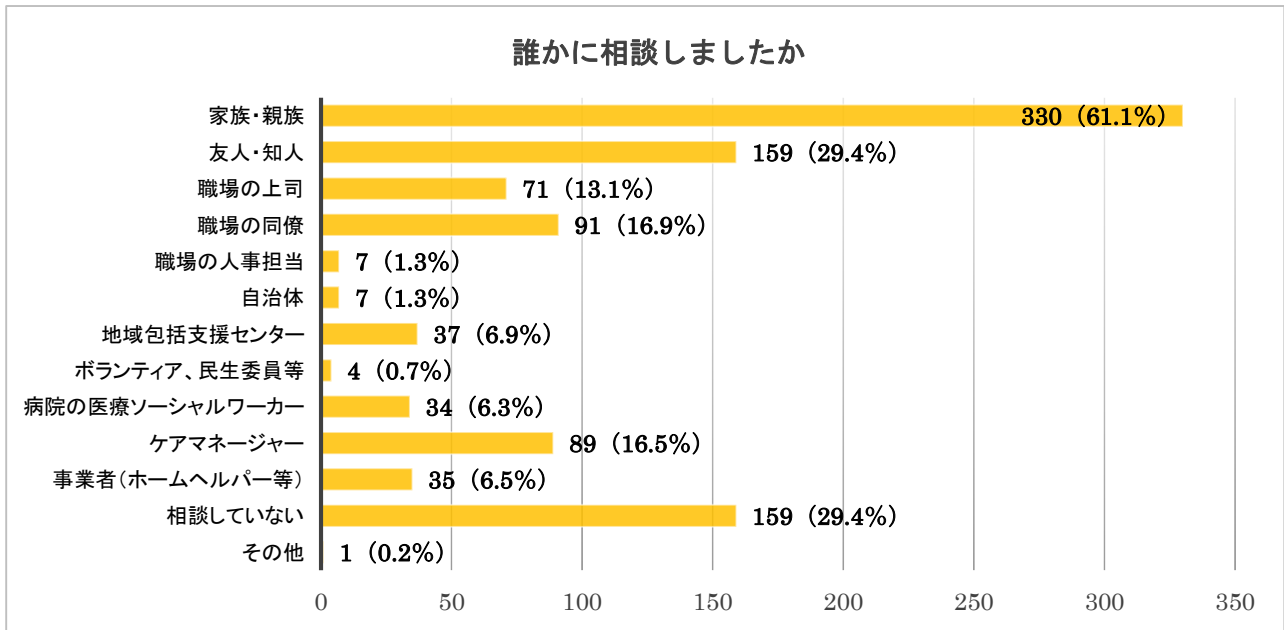
<無回答 10名>

(単一回答)



3. 介護に関する相談経験について

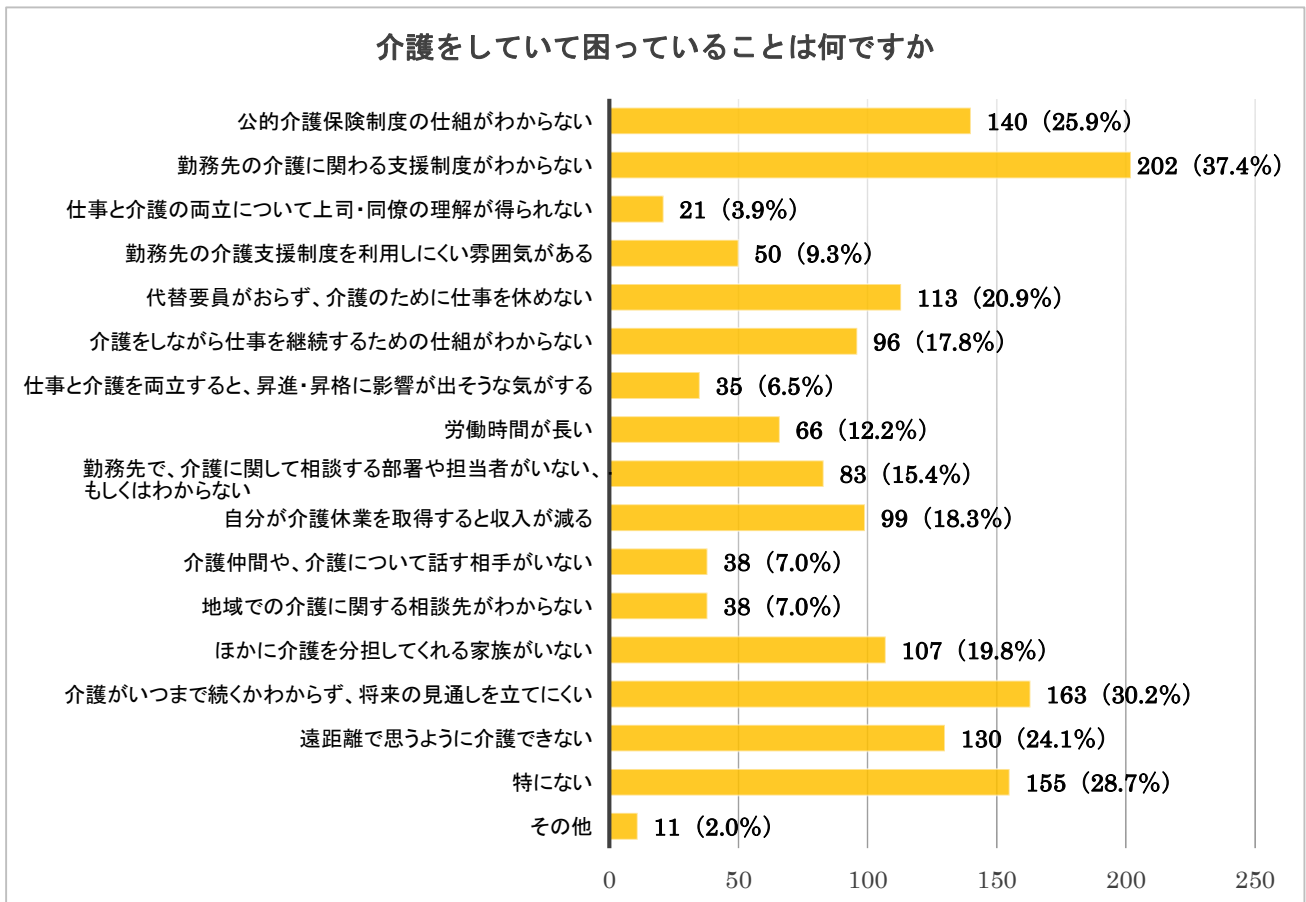
(複数回答)



<無回答 10 名>

4. 現在の介護をしていて困っていること

(複数回答)

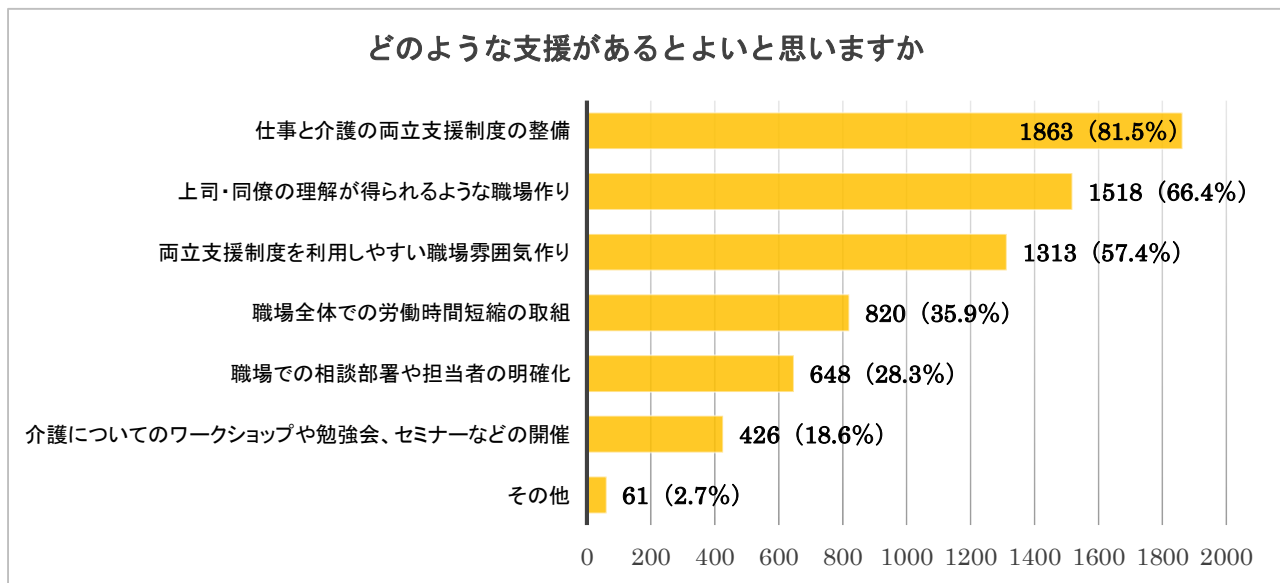


<その他の回答 12 名あり>

<無回答 14 名>

5. 仕事と介護を両立のために、本学においてどのような支援があるとよいか

(複数回答)



<その他の回答>

在宅勤務、フレックスタイム制、裁量労働制などフレキシブルな就労環境整備 (5人)
学内に職員優先の介護施設の設立や介護士の派遣事業、介護代行あるいは斡旋 (6人)
金銭面での支援 (7人)
代替要員の雇用、職員の増員、仕事量の軽減 (8人)

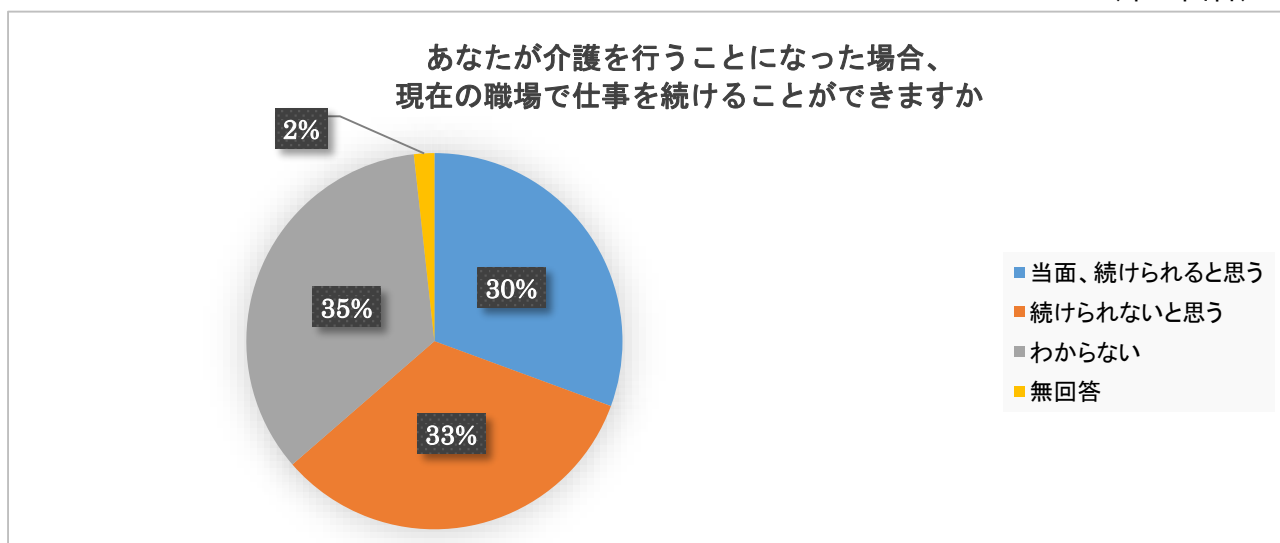
ほか、26名あり

<無回答 66名>

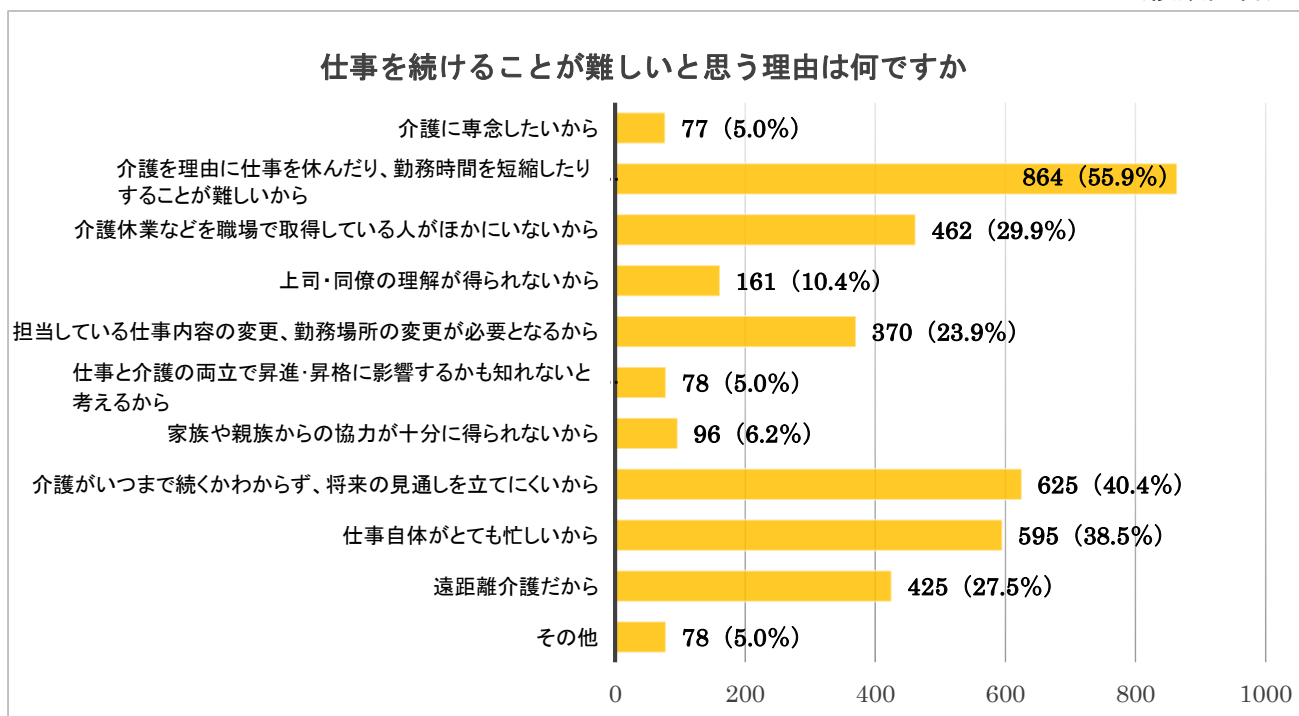
6. 介護を行うことになった場合、現在の職場で仕事を継続できると思うか。

(現在介護している場合、継続が困難と考える理由。)

(単一回答)



(複数回答)



<その他の回答>

介護経験がないため想像できない (22 人)

介護のレベルによる (11 人)

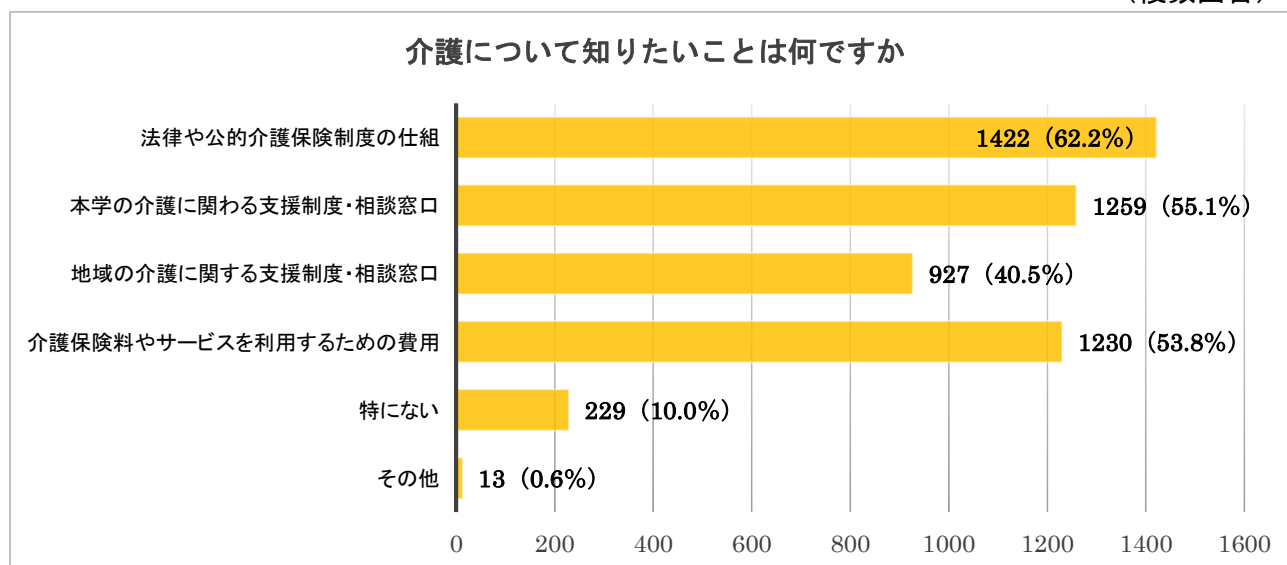
上司・同僚に迷惑をかけてしまう (9 人)

ほか、38 名あり

<無回答 27 名>

7. 介護に関する情報

(複数回答)

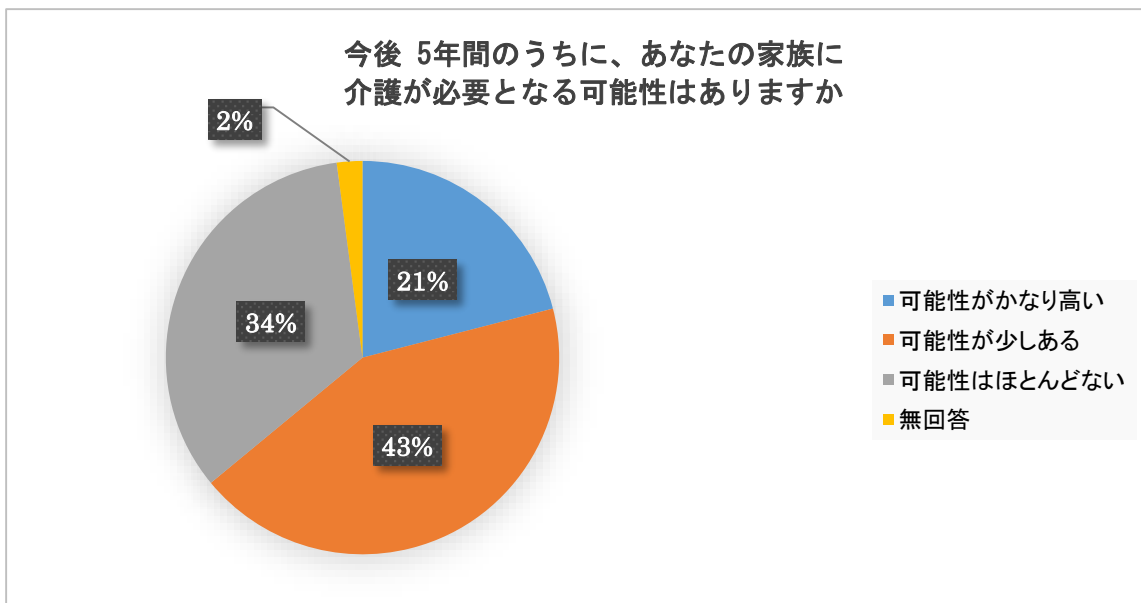


<その他の回答 11 名あり>

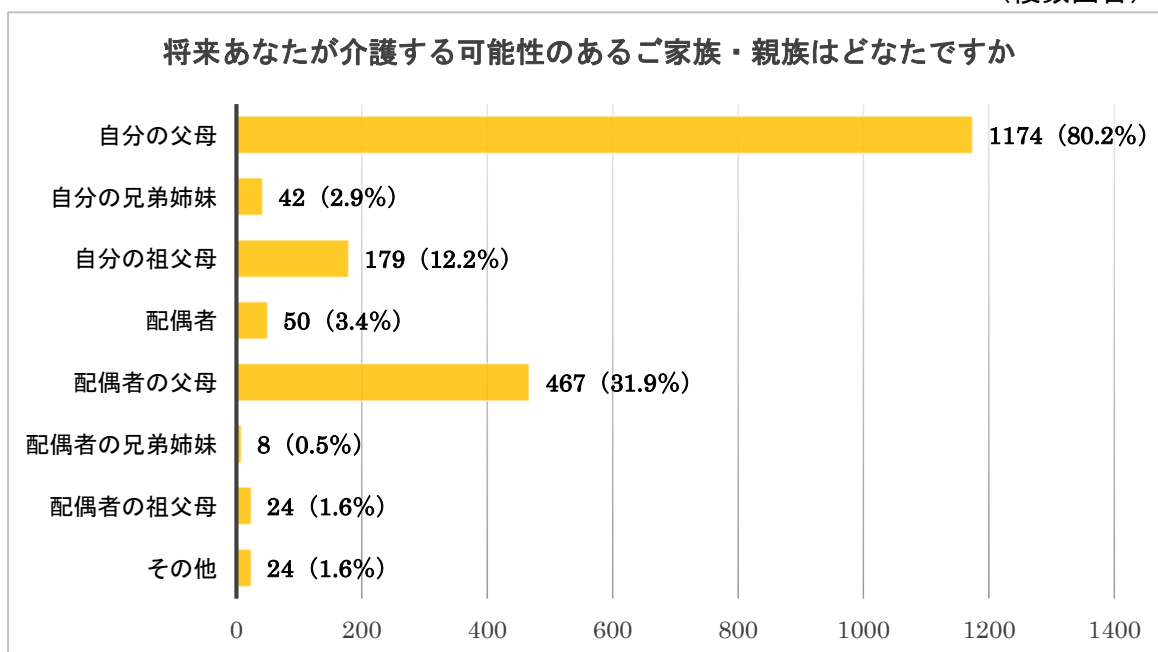
<無回答 59 名>

8. 今後5年間のうちに、家族に介護が必要になる可能性について
 (現在介護している場合、さらに介護が必要となる可能性)

(単一回答)



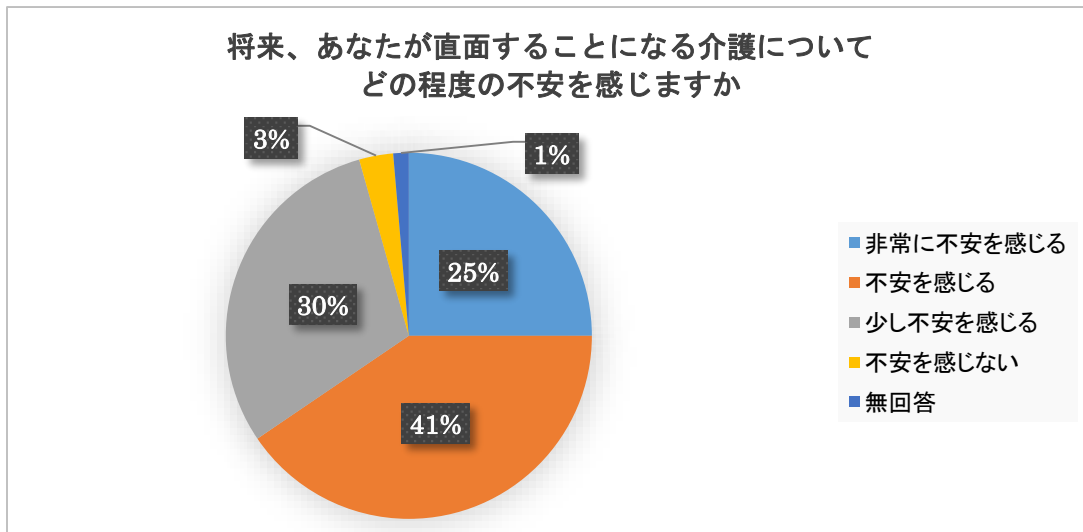
(複数回答)



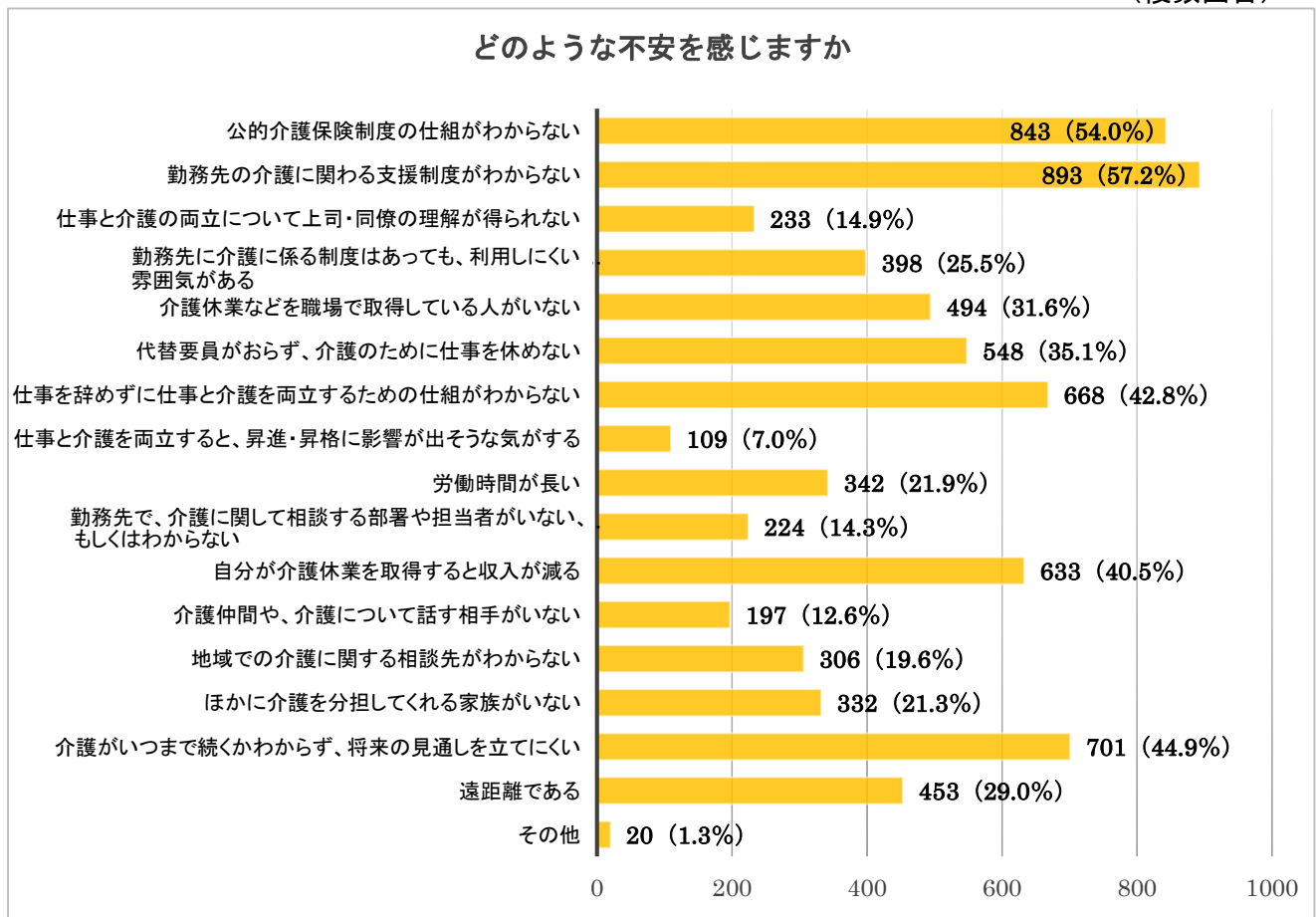
<無回答 13名>

9. 将来、直面することになる介護への不安

(単一回答)



(複数回答)



<その他の回答>

経済的に不安 (5人)。自分の生活すら維持できない可能性が出てくる。

自分自身の体調 (メンタル・フィジカル) 管理、体力が心配 (2人)

ほか、12名あり

<無回答 22名>

【自由回答欄】

1. 今後の働き方や生活がどう変わるのか不安 : 7 件
2. 親の今後の心配 : 2 件
3. 仕事と家庭・育児プラス介護に対する不安 : 8 件
4. 仕事と介護の両立は困難、続けられない : 19 件
5. 知識がない、情報がほしい、相談したい : 41 件
6. 大学に対する要望
 - 6-1 人事・体制の見直し（人手不足、過重労働・長時間労働、休日出勤、異動の制限など） : 24 件
 - 6-2 労働環境（長時間労働）の見直し、働きやすい勤務制度（裁量労働制、フレックス制など）の導入 : 12 件
 - 6-3 仕事と介護の両立支援制度の整備 : 15 件
 - 6-4 非常勤職員への対応 : 7 件
 - 6-5 制度を利用しやすい職場環境作り（周囲（上司）の理解、協力） : 25 件
 - 6-6 その他の要望 : 4 件
7. 国や自治体の支援・サービスに対する期待、要望 : 8 件
8. 遠距離介護に関する不安、困難 : 12 件
9. 経済的な不安がある、経済的支援がほしい : 10 件
10. 本アンケートが介護について考えるきっかけになった : 4 件
11. 仕事と介護を両立できている : 2 件
12. その他の意見、コメント : 17 件

合計 : 217 件

以下に自由回答欄に記入された回答のうち、一部を転記します。

1	今後の働き方や生活がどう変わるのか不安：7件
<p>今まで通りにフルタイムで仕事をしながら介護をすることが可能なのか、要介護者の状態によっても状況は異なると思うのですが不安が募ります。</p> <p>現在週30時間のパート事務職員です。将来介護中の母を一人である時間を減らすため、私の就業時間を減らす可能性があります。その場合保険も適用されなくなる等色々と不都合が発生するのではないかと考えられます。介護が長期化し、年休では足りなくなったときは収入減になると思います。</p>	
2	親の今後の心配：2件
<p>実家は母に先立たれ父が一人で生活しているため、倒れたときのことを想像すると心配が絶えません。</p>	
3	仕事と家庭・育児プラス介護に対する不安：8件
<p>結婚して世帯が別であっても、実家に介護者がいるので行き来する必要があるが、今後自分の家庭と両立して、仕事や介護ができるのか不安を感じる。</p> <p>育児中でもあり、仕事と育児との両立だけでも厳しいのに、この上に介護が降りかかってきたらとても両立が厳しくなると思う。将来的に育児も介護もやらなければならない可能性があるため、両方をやる人に対する職場のケアも考えて準備していただくと有難い。</p>	
4	仕事と介護の両立は困難、続けられない：19件
<p>本気で介護にあたるなら、退職を視野に入れなければと考えています。</p> <p>職場環境の現状を考えるうえで、両立はとてもできるとは思わない。</p> <p>仕事と介護の両立は、大変難しいと思います。介護する側に、心の余裕がないと、介護をしなくてはならない人に自分のストレスをぶつけ虐待になると思います。そうならないと願うなら、やっぱり仕事を辞めた方が思いっきり介護に専念できると思います。職場の介護休暇がとれるのであれば、1度は両立を試してみるのも経験上はいいと思います。その上で両立できるか、できないかの選択できる環境がほしいと思います。</p> <p>非常勤職員のため、仕事については、通常どおりに行うか辞めるかのどちらかになると思います。任期のある立場で、任期を全うせずに急に辞職せざるを得なくなった場合には、職場に大変迷惑をかけることになるとの心配もあります。</p> <p>正職員だったら、ある程度は両立しやすいと思いますが（守られている）、短期雇用のパートについては継続は難しいと思います。</p>	
5	知識がない、情報がほしい、相談したい：41件
<p>いつどのような状況になり、いつまで続くか予想ができないため、不安が大きいです。両立の経験談など聞きたいです。</p> <p>長崎大学外に駐在しているので、学外からでも情報が見られるように、インターネット上に公開していると利用しやすいです。</p>	

認知症の最初の受診時・病院選択がとても必要、その時のアドバイスがあったらよかったと過去をみて思う。	
現時点では介護を必要としていないが、いざ必要となったときどのような部署のどなたにまず相談すればよいのか具体的にどのような手続きなどが必要となってくるのかそのあたりについて、広く知らせてほしい。	
学内で仕事と介護の両立をできている職員がいるとすれば、どのようにして両立ができているか具体的に話を聞く機会やコラムなどあれば参考にしたいと思います。	
介護といっても直面した時でなければ本当に困ることがわからないが、誰しも漠然とした不安はあると思う。実際の事例なども交えて、相談の方法、制度の使い方など職員研修会（講演会）で紹介していただけると勉強になるし、突然の時もあわてずによいと思う。	
個々の家族構成等の違いにより最も解決すべき取り組むべき問題が異なるので、個別にアドバイスを求められるような相談員の増員の必要が出てくると考えられる。	
個別相談の前に全体的な説明会を開いてもらうとありがたいと思います。その方が個別に行ったときも相談しやすい気がします。	
常勤職員はサービス等利用できると思うがパートの場合はどうなのか。	
6-1	長崎大学に対する要望：人事・体制の見直し（人手不足、過重労働、休日出勤、異動の制限など）：24件
現場ではギリギリの人数で仕事をしているため、介護休暇を取得した場合、長期になりそうなら現場のスタッフに迷惑がかかるため、積極的に取得することが難しいと思われる。	
仕事内容に対して職員数が不足している（常勤が少ない）。そのため長時間労働となり、仕事と介護の両立が難しそうな雰囲気が大学全体にある。職員数を増やせないのであれば、業務の簡素化が重要と考える。	
長期の休暇や労働時間短縮は、周囲に迷惑をかけるのみではなく、自分自身の将来の昇進等に直接影響があると思います。化学系の教員は、教育のみならず、業績を上げることが最も求められるので、休むこと自体に不利益があります。仕事のことをフォローし合えるような職場環境の構築が重要になると思います。	
代替要員が措置等により、同僚にできるだけ大きな負担がかからない仕組みが必要。まわりに迷惑はかけたくない。	
法人化後の大学間の異動は難しいと思うが、介護の問題があるので、職員の異動について流動性を持たせられれば両立できる職員が増えるのではないかと。	
6-2	長崎大学に対する要望：長時間労働の見直し、働きやすい勤務制度（裁量労働制、フレックス制など）の導入：12件
仕事を少なくしていく努力が欠かせないのでは。残業が偉いという風潮を変えるべき。	
長時間労働を問題としてとらえてないこと。長時間労働が常態化している環境では時短勤務など行うことは難しい。ただでさえ皆過度な業務負担により労働時間が長時間となっているので、自分の休業分を誰かに負担してもらうことは難しいと感じるし、気が引ける。	

現状、昼は妻に任せている。定時退社ができる職場環境を望みます。	
1人で在宅介護をしていると出勤前に余裕がない。急なアクシデントが起こったときに遅れてしまいそうになり気持ちのゆとりがない。急な場合のフレックス制みたいなものがあれば使いやすい。車通勤できなくなって、タクシー利用が多い。帰りも遅くなるが、できるだけ早く帰りたい。（様子が気になるので）	
6-3	長崎大学に対する要望：仕事と介護の両立支援制度の整備：15件
私の親も介護のために仕事をやめました。介護と仕事を両立できる制度が出来たら素晴らしいと思います。	
両立支援制度が職場に浸透されることで制度を活用しやすくなると思いますので、制度が出来ると同時に広く周知を行っていただきたい。	
仕事と介護の両立がしやすい体制を長崎大学で備えて頂ければ、大変有難いです。私の場合は、まだ実際に介護をしているという訳ではないので深刻ではないですが、将来、避けては通れない問題ではあると考えています。よろしくお願いします。	
6-4	長崎大学に対する要望：非常勤職員への対応：7件
非常勤なので常勤職員よりも介護休暇などは取得しづらいかと思う。	
非正規職員にも、両立しながら働き続けられる職場にしてください。	
6-5	長崎大学に対する要望：制度を利用しやすい職場環境作り（周囲（上司）の理解、協力）：25件
育児でも介護でも、共働き夫婦の場合には女性側が主に請け負うことになるのが当然という風潮が変わってほしいと思います。裁量労働制で夜遅くまで働くのが当然のようになっており（上司によりますが…）、早めに帰宅することがためられる状況なので、この点も変わってほしいところです。	
「仕事と介護の両立」は確かに理想的ではあるが現実問題、周囲への配慮や仕組みへの理解度の浅さ等課題は多い。また、要介護の程度の差はあれ、皆出来れば利用したいのは山々です。正直あきらめなければいけない部分（昇進、昇格等）はあると思います。	
幸い、現職場では休暇を取りやすい環境で助かっています。パートなので有給を使いながらだと、しばらくは大丈夫そうですが、介護が長く続いたり医療費がかさんだりすると、経済的にも精神的にも苦しくなりそうで恐いです。	
子育て支援はある程度理解が得られるが、介護についてはほとんど理解をしてもらえない。過去に、介護が必要な家族がいると事情を話したにもかかわらず、忙しい部署に異動とされた人がいる。	
6-6	長崎大学に対する要望：その他要望：4件
仕事のときはどこか預かってくれるところがあると両立しやすいと思う。	
介護している人の仕事の軽減、とくに順番で回しているものなどは後にずらしてもらうなど対応して欲しい。また病院の送迎だけでなく、いつ倒れて、かけつけないといけなからないので車通勤を許可して欲しい。男女共同参画では育児が先行していて介護があまり議論されていなかったので介護のワーキングに期待します。	

7	国や自治体による支援・サービスに対する期待、要望：8件
<p>時短、休業等の制度はありがたいと思いますが、教育と介護の両立を持つ世代には、取得するのはむずかしいです。職場のサポートは十分整っていると思います。やはり、公共・地域の介護サービスに期待したい。</p>	
<p>施設の待機者数など、解決できていない問題・対応を考えて欲しい。年金問題など、老後金銭的なことが不安なく暮らせる社会づくりをしてほしい。施設での虐待問題などが起きないように、職員にも優しい環境づくりをして、安心して任せられる体制を作って欲しい。</p>	
<p>要介護2~3以上になり自宅で介護となると難しい。しかし、介護施設の入所も待ちが長いので、そのあたりの解決がうまくいけばよいと思われます。</p>	
8	遠距離介護に関する不安、困難：12件
<p>私の場合は、近い将来介護が必要になると思われる両親および配偶者の両親がいずれも遠隔地におり、私自身が直接介護に携わることは物理的に無理だと思いますが、「介護」を理由として頻繁に休暇を取れるような制度があればとは思っています。</p>	
<p>両親ともに現在要支援であり、限界集落に近い山間部から自分で車を運転したり送迎バスで20~30キロ離れた施設に週一回通っている。年数回、連休に合わせて帰って家の周りの草刈りなどを行っているが、いつまでこの状態でやっていけるか分からない。今後どのような手順でどこに相談してどれくらいお金がかかるのかなどについて知りたい。</p>	
<p>妹が介護しているが、私が遠距離のため、妹の負担を軽くしてあげたいが難しい。勤務時間などの体制の自由化ができると良いと思います。</p>	
<p>遠距離の介護になるので支援制度があっても出来ないと思います。</p>	
9	経済的な不安がある、経済的支援がほしい：10件
<p>パートです。仕事を優先すると介護がおろそかになるし、介護を優先すると収入が減る…近い将来のことを考えるときに、まず最初に頭に浮かぶのがこのことです。収入が低い家庭への援助等があるのかを知りたいです。</p>	
<p>理想論かもしれませんが、介護する側とされる側ともに幸せになるためにはできるだけ外部の力を借りた方がいいと考えており、それには組織として給与面で支援することが一番だろうと思います。</p>	
<p>遠方のため航空機を利用しています。この費用が負担になっています。金銭的支援があると助かります。長距離異動のために体力的にきつい。でも休めない。休んだら仕事が止まる。仕事の時間が足りない。</p>	
10	本アンケートが介護について考えるきっかけになった：4件
<p>両親ともにもうすぐ65歳になるが、両親・姉妹と介護について真剣に話をしたことがない。家族全員でコミュニケーションは十分取れていると思うが、介護に直面する前に、じっくり話す機会を作らなければいけないと思っている。</p>	
11	仕事と介護を両立できている：2件
<p>平日はヘルパーの方に時間程度お願いしており、土日のみ自身で対応しているので特に問題はない。土日に用務が入った場合は調整している。</p>	
<p>デイサービスなどの公的支援、妻の家族の協力でどうにかかりました。妻の母がデイサービス</p>	

で働いていた経験があったのでスムーズに行きました。夫婦だけでは難しかったと思います。

12 | **その他の意見、コメント：17件**

もっと早くこのようなことをしてほしかった。3、4年前に介護休暇について事務の人に問い合わせたが、「前例がないので」と言われ、それ以上相談したくなくなった。3年ほど前に母を病気でなくしたが、母の状態が思わしくない時に、休暇をとる人が多く、自分も休みたいとは言いづらかった。最後まで母につきっきりで介護できなかったことがくやまれます。

こうした調査をしていただけるのはありがたい。どんどんやってほしい。